



「大人のためのおはなし会」2022年度②

日時 9月27日(火) 13:30~15:00
場所 大富士交流センター 第4会議室
申込み 9月1日(木)~16日(金)
定員 20名(富士宮市在住・在勤・在学の方)

コロナ感染対策のため、申し込みが必要です。
詳しくはチラシをご覧ください。

「絵本とわらべうたの会」2022年度⑥

日時 10月4日(火) 10:00~11:00
場所 西公民館 2階 和室
申込み 9月13日(火)~

就園前の子どもとお母さんを対象にわらべうたで楽しいひとときを過ごします。絵本の読み聞かせもあります。コロナ感染対策のため申し込みが必要です。詳しくはチラシをご覧ください。

市民読書サポーターのいる日程 9月

富士宮市立中央図書館
(10時~11時30分)

10日(土)

17日(土)

24日(土)

中学生におすすめの本の紹介

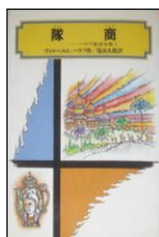


トム・ソーヤーの冒険 (上)・(下)

マーク・トゥエイン 作
石井桃子 訳
岩波少年文庫

ミシシッピ川沿いの村に住む腕白少年のトムが、浮浪児のハック、学校友達のベッキーやジョーと一緒にスリル満点の日々を送る。夜の墓場で殺人を目撃したり、家出した島で海賊生活を楽しんだり、鍾乳洞で迷って飢え死にしそうになったり…、そして最後は殺人犯たちの隠した宝物を発見する。

大人たちの意表について、怒らせたり、はらはらさせたりで、読み手は、痛快なトムの思いつきと行動力に圧倒される。



隊商 一ハウフ童話全集 1-

ウィルヘルム=ハウフ 作
塩谷太郎 訳
偕成社文庫

砂漠を通る隊商の前に、ひとりの謎の男が現れる。5人の商人は旅の仲間として迎え入れ、その男の提案で、休憩地ごとに退屈しのぎに交代で何か話をすることになる。「コウノトリになったカリフの話」「ゆうれい船の話」「切られた手の話」など旅の終わりまでに、それぞれ雰囲気異なる不思議な話や怖い話など6話が語られる。その話のいくつかには実はつながりがあって、最後には謎の男の正体が明らかになるというあざやかな物語構成。怖い話を聞いたがる子に読んでやりたい質の良い物語。

おはなしを覚えた女の子

小3のクラスでグリムの昔話「七羽のからす」を語ったことがあります。父親の呪いでカラスに変えられてしまった7人の兄さんたちを助けるために妹が旅に出るという話です。



後日、そのクラスの朝読書の時間にひとりだけずっと宙を見つめていた女の子がいたそうです。あまりに真剣な様子に、声をかけそびれた先生が後で聞いてみると、「『七羽のからす』を最後まで覚えたかどうか声に出さずに言ってみた」とのことでした。その女の子は本を読むのが苦手でいつも絵本を広げていましたが、最近はグリムの本を繰り返し読んでいたそうです。

自分で文字を読むだけではうまくイメージできない物語も、語ってもらって耳から聞くことで鮮やかにイメージが広がったのではないのでしょうか。お話を聞きながら、女の子は主人公の妹と一緒に兄さんたちを救う旅をしたのかもしれませんが。そして自分が主人公になって物語を体験したからこそ、「七羽のからす」を何度も読んで覚えたいと思ったのかもかもしれません。(市民読書サポーター 渡辺みどり)